地域活動やまちづくりの中で「女性の会」が果たす役割って何ですか？

What's まちづくり　今さら聞けない地域活動の疑問・質問　2019年1月18日号掲載

私たちが聞いてきました！
探検隊メンバー（左から）
船本里美さん
昂聖（たかあき）くん
谷口祐三子さん

目配り・気配り・心配り　女性ならではの視点で地域を支える

◀▲取材当日は、山本地域コミュニティセンターで開かれた「健康まつり」参加者への昼食づくりを担当。地域の食材をふんだんに使った体に優しいメニューがテーブルを彩ります

明治から大正にかけて、成人女性の親睦や娯楽、教養等を目的として全国各地で結成された「婦人会」。夏祭りや敬老会、美化活動などを縁の下で支える、地域行事には欠かせない存在でした。しかし近年、女性の社会参画や共働き家庭の増加に伴い、会員数が年々減少。解散を余儀なくされる地域も少なくありません。

やまもと女性の会
会長 岩下厚代さん［写真左］
顧問 原満喜子さん

北区の山本校区も例外ではなく、会員数減少を理由に12年前に婦人会が解散。しかし、その後、集中豪雨などの相次ぐ自然災害や、校区内で起こった火事を目の当たりにした現会長の岩下厚代さんらは、「女性だからこそできる、きめ細かな地域貢献があるはずと強く思うようになりました」。

熊本地震をきっかけに絆が深まり、会発足へ

そうした思いに共感する仲間が徐々に増え、婦人会に代わる新たな組織を発足させようと準備を始めた直後の2016年4月、熊本地震が発生。「幸い山本校区に大きな被害はありませんでしたが、避難所となった植木文化センターは、多くの人でごった返し混乱していました。そんな中、仲間が自然と食材を山本地域コミュニティセンターに持ち寄り料理を作って、避難所まで運びました」と当時を振り返る顧問の原満喜子さん。

これを契機に改めて女性による活動の必要性を共有した20人がメンバーとなり、同年6月に「やまもと女性の会」が発足。自治協議会や民生委員、社会福祉協議会などとも連携し、さまざまな地域活動に参加しています。同校区自治協議会の境俊次会長は、「地域活動は家庭と一緒。女性の会は地域のお母さん的存在で、いるだけで周りの人が笑顔になる」と話します。

もちろん、婦人会解散で得た教訓も忘れていません。「強制的な入会や参加は求めません。共働き世帯も増えているので、できる人ができる時に参加してもらえれば十分。時代に合わせて変化しつつ、地域への〝目配り・気配り・心配り〟だけは変わらず大切にしていきたい」と岩下さん。

発足から2年半がたった現在の会員数は約60名。植木地域で最も高齢化率の高い山本校区の未来を見据え、認知症患者を地域でサポートしていける取り組みなど、人と人とのつながりを大切にした活動をこれからも続けていきます。

▶「やまもと女性の会」発足会の様子（写真提供／植木まちづくりセンター）

年1回開催される総会では、メンバーの意識向上を目的とした講演会も実施（写真提供／植木まちづくりセンター）

探検隊メンバーの取材メモ

若い方から年配の方まで幅広い世代が入会していて、「やりたい時、できる時」に参加するというスタンスは、負担にならずにいいですね。「“目配り・気配り・心配り”を心掛けていきたい」との話が、とても印象的でした。普段、地域の方々と交流する機会があまりないので、こうした形であれば参加してみたいなと思います。 **船本さん**

「婦人会」から「女性の会」に名前が変わっただけでなく、会員の得意分野を生かした活動を心掛け、入会しやすい環境づくりに努めているのが素晴らしい。人材と財源の確保が課題とのことですが、おそろいのピンクのポロシャツの皆さんの意欲あふれる話を聞くと、さらに活躍の場が広がるのではと思いました。 **谷口さん**

「女性の会」の活動を通じて地域の笑顔が生まれているんですね！

「老人クラブ」って地域の中でどんな活動をしているの？

What's まちづくり　今さら聞けない地域活動の疑問・質問　2019年2月15日号掲載

▲東門寺公民館で週1回行われることになった「健康体操」。初回のこの日は、60～90代の約20人が参加しました

▲▶東門寺老人クラブのグラウンドゴルフ打ち始め会を、探検隊の末藤さんも体験。参加者からは、「毎月の例会が楽しみ。体を動かすことはもちろん、たくさんの人と話すだけで元気になります」との声も

私たちが聞いてきました！
探検隊メンバー（左から）
末藤 藍さん
野村由佳さん、永田文許さん

集える〝場〟を作り、高齢者が孤立しない元気な地域に

世界でも類を見ない急速なペースで少子高齢化が進む日本。熊本市の高齢化率（65歳以上人口が総人口に占める割合）は25・6％と全国平均を下回るものの、2000年の統計が15％台だったことを考えると喫緊の課題といえます。特に中山間地域である河内・芳野校区の高齢化率は約41％と深刻です。

しかし、河内・芳野老人クラブ連合会会長を務める内田勝也さんは、「老いに対するイメージは必ずしも良くないが、本当に老いは不幸なことなのか？　若い人からもうらやましがられる老人になろう」と周囲へ呼び掛け、積極的にクラブ活動を行っています。

高齢者の引きこもりを予防し、楽しく学べる場を提供しようと年5回、講師を招いて「生きがい学級」を実施しているほか、「福祉まつり」はステージイベントで盛り上がります。また、「福祉もちつき」では河内・芳野校区に住む一人暮らしの高齢者全員に餅を配布しています。

「（高齢者を）孤立させず、顔見知りになることが大切。人と話すことは、元気・笑顔につながります」と内田さん。また今後は、高齢者が自宅で安心して生活できるよう見守り・声掛けなどを実践するシルバーヘルパー（友愛訪問）にも力を入れていくため、地域内での養成講習会も行っていく予定です。

小さな活動を積み重ね存在意義知ってもらう

内田さんは以前、自身の住む東門寺地区で自治会長を務めていた経験から、校区自治協議会をはじめ、民生委員や社会福祉協議会とも密に連携し、2月10日に、芳野校区では初となる「徘徊（はいかい）者捜索・声かけ模擬訓練」に参加しました。

また、東門寺老人クラブでは、毎月20日の例会でグラウンドゴルフを行っています。さらに、地区内の観光スポット「拝ヶ石」の草刈りや清掃のほか、今年から週1回の健康体操もスタート。「体を動かし、平均寿命ではなく、健康寿命を延ばしていくことが大切。東門寺で良い事例を作り、河内・芳野地区全体に広めていきたい」と熱く語る内田さん。

こうした地区がある一方で、隣接する集落では会員減少に伴い解散する老人クラブがあるのも現実です。内田さんたちは、小さな実践を積み重ねることで、地域の人たちに老人クラブの存在意義を再認識してもらい、河内・芳野校区の全地区でのクラブ設置・復活を目指しています。

（写真左から）
河内・芳野地区老人クラブ連合会会長
芳野校区東門寺老人会会長
内田勝也さん
河内・芳野地区老人クラブ連合会女性部
内田アヤ子さん

探検隊メンバーの取材メモ

足首や手首に負荷をかけて行う健康体操も軽々とこなされる皆さんの笑顔がまぶしかったです。地域のサポート体制も整っていて、家族のような絆と安心して集える場所があることが健康を維持できる秘けつなのかなと思いました。 **末藤さん**

ご自身の住む地区だけでなく、近隣の地区も巻き込みたいという強い思いと、会長のオープンな人柄が多くの人を引きつけ、活発な活動につながっているのだと感じました。次は、名所の拝ヶ石巨石群に行ってみたいと思います。 **永田さん**

内田会長は、補佐役の奥様とともに高齢者同士のコミュニケーションを円滑にするための橋渡し役に徹していて頭が下がりました。そのおかげで河内・芳野地区の老人クラブは結束も強く、高齢者が安心して生活できるのだと感じました。 **野村さん**

老人憩いの家や拝ヶ石の草刈りも行っている東門寺老人クラブの皆さん。町内一斉清掃の際には、急斜面での作業も

高齢者の生きがいづくりと地域の安全・安心に貢献

老人クラブは、高齢期を楽しく、生きがいをもって、安心して暮らしていくため、発足当初から「健康・友愛・奉仕」という3本の旗印を掲げています。健康づくり・介護予防活動に取り組み、高齢者全体にその活動の輪を広げるとともに、引きこもりや孤立を防ぐ友愛活動、地域の安全・安心を守る子どもの見守り等を行い、地域の安全と安心に貢献してきました。会員は、入会を希望する高齢者で、おおむね60歳以上の方が対象です。

老人クラブに関するお問い合わせは　熊本市老人クラブ連合会☎096(341)1060

「地域公民館」って、地域の中でどんな役割を果たしている場所なの？

What's まちづくり　今さら聞けない地域活動の疑問・質問　2019年3月1日号掲載

地域公民館って、おじいちゃん・おばあちゃんたちしか使ってないイメージが…

私たちが聞いてきました！
探検隊メンバー（左から）
西島明美さん
末藤 藍さん

さまざまな地域活動の拠点となるよう環境を整備

千塘校区4町内。同町内の地域公民館「下内田公民館」（以下、公民館）は、下内田公園の敷地内にあり、隣には地域の氏神・流れの神神社や消防小屋も立っています。

同町内では、白河部さんが館長を務めた平成23・24年度から、公園と公民館を一体的に捉え、地域の人々が気軽に集える場所にしようと、さまざまな取り組みを行ってきました。「公民館周辺は荒れ地があったり、敷地内にもゴミ置き場のようになっている場所がありました」と白河部さん。

市や区からの補助金のほか、住民からの寄付金、自治会費などを活用し、敷地内と周辺に池や小川を整備。さらに、小川にはショウブ、敷地内にはモミジを植えて、「花が咲き季節が感じられる公園、人が集う公民館」を目指しました。

住民同士のにぎわいや地域のつながり生まれる

現在、同町内では、自治会の会議などのほかにも、年間を通じて行われるさまざまな地域行事（一斉清掃、ショウブ祭り、敬老会など）で公民館と公園をフル活用。その都度、多くの住民が集い、地域のにぎわいにつながっています。

「公民館主催の自主講座なども行っていますが、それだけでなく自治会活動の拠点になるよう、地域の各種団体と有機的に関わりながら、さまざまな行事を企画しています」（白河部さん）

地域公民館を単なる“箱”としてではなく、まちづくりや地域活動の“核”と位置付け、そこから住民同士の世代を超えたつながりや地域のにぎわいが生まれているのが、銭塘校区4町内の特徴です。

一方で、公園の遊具の老朽化や、公民館を中心とした地域行事の次世代への引き継ぎなどの課題もあります。しかし、常に前向きに「下内田（銭塘校区4町内）を活気のある地域にしたい！」との思いを共有する歴代館長の皆さんの熱意が、これからも地域と人を動かしていくことでしょう。

下内田公民館歴代館長の皆さん
（写真右から）
白河部 健さん＝平成23・24年度
久藤潤一さん＝平成25・26年度
河部典次さん＝平成27・28年度
園田和久さん＝平成29・30年度

▲下内田公園内にある公民館。年間を通じて、さまざまな会議や行事の場として地域住民に活用されています（写真提供／下内田公民館）

▲公園にはサクラやモミジが植えられていて、季節ごとにさまざまな色合いで住民を楽しませてくれます（写真提供／下内田公民館）

▲ゴミ置き場のようになっていた一角をきれいにし、住民たちで作った「なごみの池」（写真提供／下内田公民館）

銭塘校区4町内の自治会活動は公民館を中心に展開されています！

銭塘校区4町内（下内田）自治会では、理事会や総会などの自治会の各種会議はもちろん、自治会や各種団体が中心となって行うさまざまな年間行事も、地域公民館と隣接する公園を中心に行っています。春と秋の地域一斉清掃のほか、ショウブ祭りやだご汁会、冬にはどんどやを開催。その他に避難訓練や老人会主催の誕生会、婦人会主催の敬老会、流れの神例大祭でも、公民館を活用しています。

◀荒れ地だった公園の周辺を幅約5m・長さ約100mにわたって整備して小川に。春にはショウブが咲き、初夏にはホタルが舞い、地域住民を楽しませてくれます

◀ショウブ祭り、だご汁会など、さまざまな地域行事で公民館が“大活躍”

※写真は、いずれも下内田公民館提供

公民館単体ではなく、公園を組み合わせた活動を進めているのが新鮮でした。年齢問わず集える公園での行事を通して地域のつながりが強まり、将来的に「後継者不足」の解消にもつながるのではないでしょうか。年間行事も温かみを感じるものが多く、それが参加者の多い理由ではと感じました。　**末藤さん**

探検隊メンバーの取材メモ

地域公民館が、地域行事やその話し合いなど、多くの場面で活用されていることを初めて知りました。銭塘校区4町内では、隣接する公園とその周辺の整備を行うことで、公民館や公園に定期的に多くの人が集まっていると聞き、歴代館長の皆さんの「世代を超えて協力し合い、地域を良くしたい」との思いが伝わってきました。　**西島さん**

いつもきれいな地域の「公園」。いつ、誰が掃除してくれているの？

What's まちづくり　今さら聞けない地域活動の疑問・質問　2019年3月29日号掲載

公園がきれいにされていると「安心して暮らせるまち」と思えますよね

私たちが聞いてきました！
探検隊メンバー（左から）
谷口祐三子さん
船本里美さん
昂聖（たかあき）くん
髙見睦代さん

▲公園内の花壇に植栽を行う秋津三丁目公園愛護会の皆さん。夏の作業などは、数分で汗だくに（写真提供／秋津まちづくりセンター）

▲年2～3回、植栽することで、園内の花壇にはいつも色とりどりの花が咲き、訪れた人たちを和ませてくれます（写真提供／秋津まちづくりセンター）

▲面積約1万㎡の秋津三丁目公園。平日は近くの保育園の園児や小学校の児童らが利用することも

公園が持つ機能を発揮するには、地域から愛されることが重要

皆さんの身近にある「公園」。広さや設置されている遊具などはさまざまですが、休息の場や子どもたちの遊び場、健康づくりやイベント・行事の場として、地域にとって欠かせない場所です。

そうした公園の多くが、ボランティア団体の活動によって美しく保たれていることをご存じですか？　それが「公園愛護会」です。公園愛護会は、熊本市と協力して公園の美化および健全利用の促進を図ることを目的に、昭和42年に地域から自発的に生まれたボランティア団体です。平成30年4月1日現在、市内には1088カ所の公園がありますが、527の公園愛護会が660カ所の公園で活動を行っています。

きれいな公園はマナーも向上　美化活動が生む相乗効果

その一つ、東区の秋津三丁目公園の美化活動に取り組んでいるのが「秋津三丁目公園愛護会」です。秋津校区自治会の役員などを中心に約10人で活動している同会。

「月1回行う定期的な清掃作業では、園内の除草やゴミ拾いなどを行います。また年2～3回、花壇の植栽を行っています。人手が足りないときには、校区の老人会（菜の花会）などにも手伝ってもらいながら活動しています」と同会会長を務める工藤さん。また、木の枝切りや園内の施設（トイレ、遊具等）の破損などは、市の土木センターに連絡して対応を依頼しています。

公園に隣接する秋津まちづくりセンターの職員が、「花壇に雑草が生えているのを見たことがない」というほど手入れが行き届いている同公園。工藤さんは、「地域の皆さんに安心して使ってもらえるようにと取り組んでいます。不思議と、きれいに管理されている公園は、使う人のマナーも良くなり、私たちが注意を呼び掛けることもほとんどありません」と、清掃とマナー向上の相乗効果を実感しています。

公園は憩いの場であるだけでなく、熊本地震のような大規模な災害の際には、地域の緊急避難場所や炊き出し場所としても活用されます。そうしたときにスムーズに機能するには、普段から公園がきれいな状態に保たれていることが欠かせません。地域の公園を支える公園愛護会は、身近にできるまちづくりの一つとして幅広い世代に参加してほしい活動です。

秋津三丁目公園愛護会
会長 工藤修一さん

子どもから大人まで幅広い世代が利用する秋津三丁目公園

秋津三丁目公園は、園内にウオーキングやランニングに使える遊歩道があるほか、築山や水辺もあり、子どもたちにとっても格好の遊び場です。そのため利用者も多く、近隣の3カ所の保育園が園外保育で使用したり、老人会のグラウンドゴルフや夏休みのラジオ体操の会場としても利用されています。

◀雑草などもなく、きれいに植えられた花壇の花を眺める船本さん親子

探検隊メンバーの取材メモ

自宅が公園に隣接していることもあり、興味を持って参加しました。きれいな公園では、利用者のマナー違反などが減ると聞き、公園愛護会の活動が果たす役割の大きさを実感。何より、公共の場の美化を楽しみながらやっているのが素晴らしいですね。　**谷口さん**

子どもを連れてよく公園に行くので、公園愛護会のことが気になりました。市など行政が管理していると思っていたので、地域の方々がボランティアで美化活動を行っていると知って感動しました。今後は花壇の花を眺めたり、ゴミを拾ったりしようと思います！　**船本さん**

秋津3丁目公園がとてもきれいに保たれている陰には、公園愛護会の皆さんの日々の活動があったんですね。地域の活性化には、こうした“縁の下の力持ち”的な方々の存在が欠かせないことを知り、私も今度から「来た時よりも美しく」を心掛けます。　**髙見さん**

公園愛護会は公園の魅力向上に欠かせない存在

公園愛護会連合会とは、公園愛護会相互の交流を深めることなどを目的に結成した組織で、年1回の総会のほか、3ブロックに分けてのブロック会議や新任の愛護会長向けの研修などを行っています。身近な公園に興味を持ってもらい、ぜひ愛護会の活動に参加してほしいと思います。

公園愛護会に関するお問い合わせは各土木センター河川公園整備課まで
東部土木センター☎096(367)5509　西部土木センター☎096(355)2937
北部土木センター☎096(245)5054

この方に話を聞きました！

熊本市公園愛護会連合会
会長
大川洋次郎さん